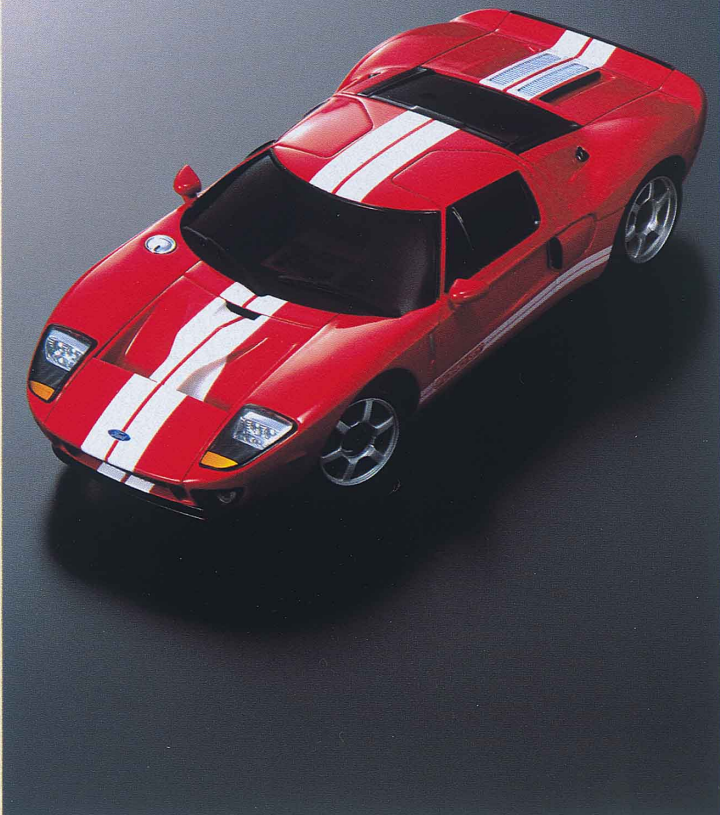




栄光の伝説が蘇る。 フォードGTが ミニッツに登場!

photographs: Takashi Shimizu



1960年代後半、当時のレース界を席巻した1台のレーシングカーがあった。ルマン24時間耐久レースにおいて、フェラーリなど他の強豪を抑えて'66年から4年連続優勝という偉業を成し遂げた、フォードGT40である。その雄姿は、伝説としていまなお人々の心の中で輝き続けている。

時は流れ2003年。かの栄光の1台は「フォードGT」として現代に蘇ることになった。その「事件」はクルマ好きたちの間を駆けめぐり、驚きと賞賛とで迎えられたことは記憶に新しい。

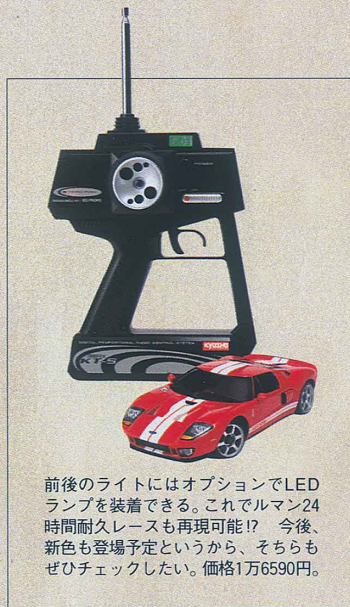
そしてこの夏、京商のミニッツシリーズのラインナップにフォードGTが加わったことも、ひとつの「事件」と言ってしまうほどではないだろう。

実車と見まごうほどの緻密な再現性。とくに注目すべきは、ボンネットやサイドのエアインテークやリアのバンパーを別パーツで作り込んでいる点だ。製作上、一体成型の方が手間もコストも抑えられる。そこをあえて別パーツにこだわって作ったことに、京商の「精神」が感じられる。もはや単なるR/Cカーと呼ぶには恐れ多い。

「大もとにあるGT40からの歴史を考えると、このクルマを作るにあたっての思い入れの強さは並々ならぬものがありました。空気を取り入れ口と排出口の多いクルマで、そのディテールの再現など難しい課題がたくさんありましたが、完成度はこれまで手がけた中でも指折りの出来です」と京商の開発担当者は自信を込めて語る。事実、フォードに完成品を見せると、一言「エクセレント!」というコメントが返って

きたほど。ライトの中の細かいパーツの再現、給油口のメッキ処理、フロントスポイラーの薄さの追求と、こだわりのエピソードが次々と挙がってくる。

フォード100周年を記念して限定448台が作られ、そのうち一般ユーザーの手に渡ったのは111台と言われているフォードGT。日本に存在するのは2台とも言われ、現実世界ではまず手の届かぬ存在かもしれないが、ミニッツでならすぐにも入手可能だ。ディテールまでこだわりにこだわって再現したミニッツであればこそ、この伝説の1台を自分のコレクションに加える喜びがあるというもの。ぜひともその手にとって確かめてほしい。



前後のライトにはオプションでLEDランプを装着できる。これでルマン24時間耐久レースも再現可能!? 今後、新色も登場予定というから、そちらもぜひチェックしたい。価格1万6590円。

今月のKYOSHO コラム&ニュース

002

迫力のスピード感! ミニッツを意のままに 走らせる喜び。

京商のハンパでないこだわりが生んだミニッツは、コレクションアイテムとして収集したり、インテリアとして部屋に飾ったりしても映えるが、それではダイキャストモデルと何ら変わりがない。R/Cカーとしてこの世に生を受けたミニッツは、当然、走らせてこそその魅力が引き立つのである。

もちろん、京商のミニッツは走りへ

のこだわりもハンパではない。ワイド&ローのフォルム、低重心化、駆動ユニットの左右センター化など、徹底的に追求したシャーシ設計により、走行性能の高さは、手のひらサイズのクラスとしては他に類を見ないほど本格的。サスペンションやディファレンシャルギアなど最新のメカを内蔵している。乾電池駆動ながら最高速度は20km/hを誇り、約1/28スケールという比率から単純に実車換算すれば20km/h×28=560km/h! もはやF1を超え、リニアモーターカーすら超える速度だ。

仮に他の玩具系のR/Cカーなら、ステアリングを右に切れば全開で右に、左に切れば全開で左に振り切れてしまう。アクセルも然り。5分も走らせれば「やっぱりこんなものか……」とすぐ飽きてしまうことだろう。

ところが、ミニッツは違う。実際にプロポを持って走らせれば、奥深い走

りの世界に踏み込んでしまったことに気づくはずだ。こちらの手の動きに忠実に、クイックかつ微妙なニュアンスをも表現できるステアリングの切れ方は素晴らしいの一言に尽きる。また、アクセルも指の力の入れ方に合わせて低速から高速まで無段階と思いのまま。加速・減速の微妙な調整さえも可能なのだ。速さのみならず、その動作の複雑さに驚くばかりである。

高レベルの操縦感覚を要求され、時間をかけて「自分のものにする」楽しさがそこにはある。オーナーとして、ミニッツと過ごした時間に比例して自分のスキルも上がっていく達成感が得られた時は、素直にうれしくなる。その点でも、まさに実車さながらなのだ。時間を忘れて熱中していると、あたかも実車を自分が操縦しているかのような感覚すら湧いてくるから、ミニッツとは実に不思議なものである。

1万数千円で手に入れることができ、乾電池を入れれば準備OKという手軽さもうれしい。敷居は低く、かつハマればハマるほど懐の深さを呈してくれるミニッツ。ここまで大人がどっぷりと浸かれるホビーの世界はなかなかない。かくも奥深いミニッツの走りの世界にハマってみるのも、また一興ではないだろうか。



圧倒的なスピード感、操縦スキルを磨くことの達成感、自分の意のままに操ることの喜び。ミニッツの走りの世界は実に奥深い! 写真は新作「フェラーリ360 GTC」(価格1万7640円)。